

【 麻生区役所への訪問について 】 報告

日 時 平成 29 年 5 月 1 日 (月) 9 : 30 ~ 10 : 30
場 所 麻生区役所 4 階会議室
目 的 川崎市として実施している「ペットに関する災害時や日常の取り組み」についての現状を把握する。
担当課 危機管理課・衛生課
参加者 危機管理課・衛生課 4 名
ペットとぼうさい 8 名

1 聴き取り内容

◆現在、麻生区内の避難所は 25 ヶ所だが、ペット同行避難を可としている所は 13 ヶ所。「同行避難は同室避難ではない」ことを避難所運営会議で共有し、同行避難が可となった。また、現在のところ、同一敷地内（校庭の片隅など）でペットの避難を考えている。

◆大規模な災害が起きた場合、川崎市では、動物愛護センター（現在は高津区、H30 年度から中原区の予定）に、川崎市獣医師会等で構成される川崎市動物救援本部を設置する仕組みを作っている。本部では、様々な役割を担う多くのボランティアの配置を想定しているが、現在はこれに関するボランティア登録などはしていない。身近な地域で、動物救護病院として、被災動物の支援を担当するのは、獣医師会会員の動物病院であり、短期治療や一時保管を行う。麻生区では、現在 8 か所の動物病院が獣医師会会員となっている。

◆川崎市の総合防災訓練には、毎年、獣医師会も参加し連携をとっている。

◆H25 年に予想された麻生区の避難者数は、約 7,500 人。避難所が 25 ヶ所であることから、平均 300 人が避難所に訪れることになる。発災直後、避難所には様々な人やペットが避難してくると予想される。同行避難の可否など避難所のルール適用は、直後は難しい。

◆毎年、川崎市では、9月に「動物愛護フェア」、11月に「適正飼養キャンペーン」イベントを実施し、ペットとの共生や躰についての啓発活動をしている。

◆動物愛護センターでは、子猫への哺乳・地域猫の活動・ペットの躰や訓練・譲渡会の手伝い等をボランティア登録者に協力してもらっているが、防災活動はしていない。ボランティア登録者は100名弱。麻生区で登録をしている方は2名。

◆麻生区の犬の登録頭数は、10,000弱。猫も同数いると言われている。一般的に、ペットは子どもの数より多いと言われている。このことから、ペットの問題は放置できないだろう。（H28年10月1日現在、麻生区の年少人口（0～14歳）は、23,639人。）

2 衛生課から、後日、回答していただくことになった質問

Q 大規模な災害が起きた場合、川崎市では、動物愛護センターに、川崎市獣医師会等で構成される川崎市動物救援本部を設置する仕組みを作っている。本部では、様々な役割を担う多くのボランティアの配置を想定しているが、このボランティアとはどのような人なのか？

Q 災害に備えてのペットが暮らす室内対策の資料があれば教えて欲しい。

Q 今年度の川崎市総合防災訓練の日程を教えて欲しい。